

# 質問書（第2回上尾市総合計画審議会）に対する回答一覧

令和2年5月行政経営課作成

No.	委員からの質問内容	該当番号	回答	
1	1. 計画策定の趣旨の「団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年問題への対応」という表現は社会的によく使われているが、高齢者サイドに立つと「問題」という表現は避けるべきである。「団塊の世代が後期高齢者を迎えることへの対応」とした方が良いのではないか。	資料1	修正いたします。	平会長
2	「8持続可能な行政経営」の「行政経営」を、より幅広い意味を持つ「都市経営」としたらどうか。そうすることにより、市役所だけではなく、市民団体や企業も地域経営への参画をより求めることにつながる。また、「行政経営」とすると、基本構想・基本計画は、市役所が実施するための市役所のためのものという印象を与える。	資料2	「都市経営」の文言修正は良いご提案かと存じます。審議会でもご協議いただきたいと思います。	平会長
3	施策大項目が第5次計画から変更されているが、どのように順番を決めたかを説明して頂きたい。	資料2	①まず、今後人口減少及び高齢社会を迎えるにあたって、重要と思われる施策を1～3まで配置。 ②4. 5番目には、市民サービスとして当然あるべき内容（主にソフト面）を配置。 ③6. 7番目は、ハードや環境面について施策を配置 ④8番目には、1～7全体に関わる「持続可能な行政経営」を配置したところです。	平会長
4	「空家等対策の推進」は、対策の中身によるが、防犯（不審者の侵入など）よりも防災（崩壊の危険など）の観点の方が重要ではないか。	資料3	現在、本市において空き家は、防犯面の観点から交通防犯課で業務を所管しているが、市民目線の課題としては、環境・衛生面での問題が大きいところである。業務の所管等も含め、今後検討していききたいと思います。	平会長
5	参考例に記載した項目を掲げた理由を説明して欲しい。	資料2	市民会議等で出たご意見などを踏まえ、庁内プロジェクト・チーム等で検討したものととなり、それぞれ『別紙1』のように考えたところです。	細野委員
6	<p>基本方向の順番と文言の修正を以下のとおり考えた。</p> <p>1. 支え合う安心・安全なまちづくり</p> <p>2. 明日を担う人を育むが育つまちづくり</p> <p>3. 人生が楽しめるまちづくり</p> <p>4. 誰もが自分らしく暮らせるまちづくり</p> <p>5. 快適に過ごせる未来に残せる環境と共生するまちづくり</p> <p>6. 活力にあふれたにぎわいあるまちづくり</p> <p>7. 持続可能な行政経営</p> <hr/> <p>【理由】</p> <p>(1) 先ず、第5次総合計画にも示されているように、共助、公助の仕組みの元、市民が安全そして安心して暮らせる街であるということが大前提になると考え、1番に掲げた。</p> <p>(2) その大前提の元に、市民が能動的に活動することにより、市民が育ち、市民が楽しみ、そして市民が自分らしく暮らせる街を目指すべきだと考えた。</p> <p>(3) ここで重要な事は、(1)の前提の元で市民が(2)を進めていく際の持続可能な取組環境です。さらにその取組環境は未来に残せる環境でなければならない、したがって、未来に残せる取組環境であるか否かを意識しながら進める必要があると思います。</p> <p>(4) 以上の結果として活力にあふれたにぎわいのある街となったら良いのではないのでしょうか。</p> <p>(5) 以上(1)～(4)を進めるにあたり、基本理念に記載された根本的な考えの元、市民また市が横断的に機能できるように行政が動いていくことが必要であるので、掲載の案と同様の位置付け。</p> <p>※記載の(案)には『安全で便利なまちづくり』の記載がありましたが、『便利』は人によって差異があり、『便利』を基本方向に入れるのは再考を願えればと思います。</p>	資料2	<p>・基本方向の順番につきましては、今後人口減少及び高齢社会を迎えるにあたって、特に重要と思われる施策を1～3まで配置したところですが、順番については審議会の皆様でご議論いただければと存じます。</p> <p>・ご提案の「まちづくりの基本方向」の『2. 明日を担う人が育つまちづくり』と『5. 未来に残せる環境と共生するまちづくり』については、とても良いご提案かと存じますので、審議会の皆様のご意見も踏まえ、再度検討させていただきます。</p> <p>・また、ご提案の『安全で便利なまちづくり』を削除し『支え合う安心・安全なまちづくり』に統合させるイメージの件につきましては、そのような体系もありえるかと思いますが、今回、基本方向を設定するにあたっては、施策を推進する組織も意識して体系化しており、『安心』分野は福祉関係、『安全』分野は防災や治安維持関係でまとめたところです。</p> <p>・なお、『安全で便利なまちづくり』の『便利』の表現については、再考し、あらためてご提案させていただきたいと存じます。</p>	細野委員

No.	委員からの質問内容	該当番号	回答	
7	基本理念の「接続可能」は他の項目に比して市民の認知度が低いのではないか。最近「SDGs」とともにある意味では注目されるテーマだが、「違う表現」を自分も模索中。	資料2 基本理念	ご指摘の点を踏まえ、再検討します。	土橋委員
8	第5次では大項目であった「市民との協働と新たな行政運営」が今回は「持続可能な行政運営」の下位に「協働」として位置付けられた理由を知りたい。	資料3-1 P2 資料3-2 P4	ご指摘のとおり、現行の第5次上尾市総合計画後期基本計画においては、施策の大項目の一つに『市民との協働と新たな行政運営』として『協働』の言葉はございました。ただし、今回提案させていただきました施策の大項目『8. 持続可能な行政運営』は、施策1～7の全体にかかる分野として位置付けており、『協働』は前回と変わらず重要な要素として捉えているところです。	土橋委員
9	今回コロナ関連で所属するNPOは県商業・サービス産業支援課から「新型コロナウイルス感染症対策に伴うテレワーク導入の緊急電話相談窓口（無料）を業務受託し3月末まで実施しました。本日も県職員の方と総括ミーティングをZOOM会議で実施しました。 「接続可能な行政運営」は財政面での要素が大きいのですが、行政運営での「働き方改革」でのテレワークなども有効ではないでしょうか。女性市民の行政事務参加等広い意味での「市民との協働のまちづくり」だと思います。人材確保にもなります。もちろん情報セキュリティは必須ですが。	その他	新型コロナウイルスの感染拡大により、民間ではテレワークやウェブ会議が急速に普及しており、委員のご指摘のとおり、市でも普及できれば働き方改革から有能な人材確保にもつながるかと思いますので、総合計画にもその内容を盛り込めるか検討してまいります。	土橋委員
10	コロナ影響による策定スケジュールや策定背景への変化は発生するか	参考資料3	・基本的に、最後議会で議案として上程するのは、スケジュールのとおり12月定例会でと考えています。その間の審議会のスケジュールの変更や会議の進め方の工夫などは検討して実施していきたいと考えています。 ・策定背景については、新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、未曾有の事態であり、今後の行政運営においても大きな出来事であることから、総合計画を作成するにあたっては、どこかで触れられるように調整したいと考えています。	尾花委員
11	人口推計をふまえて、市政への歳入・歳出面の影響（高齢化進行による個人市民税への影響、扶助費や高齢者福祉費がどう増加するか）の試算をどう見ているか	その他	別紙2のとおり、試算しましたので、ご参照ください。 あくまで、現状の制度のまま、人口だけが変化した場合の試算になりますので、ご了承ください。	尾花委員
12	人口減少時代への転換という不確実性の高い時代であればあるほど、最上位計画としての総合計画を頂点とする自治体計画体系を構築し、そこに位置付けられる分野別計画・個別計画の進行管理（予測と調整）を繰り返すことが強く求められてくる。計画間の整合を図るため、これらを最上位計画としての総合計画に一定程度数量的な内容も含めて具体的に位置付けることが求められてくるが、調整機能をどう具体化するか。	資料2	総合計画の進捗管理においては、各施策に紐づいた分野別計画・個別計画を束ねた形の『成果指標（アウトカム指標）』を掲げたいと考えております。 ※分野別計画・個別計画では、事業の進捗を計る『アウトプット指標』を設けている。 事業を推進していく上で、総合計画に掲げる市民生活が向上したかなどを計る成果指標が改善されなければ、それに紐づく分野別計画・個別計画の事業等を見直す等を行う必要があることから、そのような形で総合計画としての調整機能は働かせていきたいと考えております。	尾花委員
13	指標のズレが生じた場合、市の実施する政策が適正水準を下回っていないか上回っていないかを主催者が把握できるような方法を設定すべきではないか	資料2	総合計画に掲げる指標は、中項目ごとにそれぞれ1、2個の成果指標（アウトカム指標）を掲げたいと考えており、その際、設定する指標については、県・他市などとの比較が可能な指標を掲げるとともに、それらの現在値なども比較対象として掲載し、わかり易い表記を検討したいと考えております。 また、その指標は毎年、行政評価の結果として公表してまいりたいと考えております。	尾花委員

No.	委員からの質問内容	該当番号	回答	
14	計画の中に「大きな財源を伴う施設整備等一覧」として、施策名／事業名、年度ごとの事業内容、総事業費、一般財源、優先度を位置づけるべきと考えるが、どこまで具体的記述を考えているか。	資料2	公共施設の更新等については、公共施設マネジメントで各種計画を策定し優先度も踏まえ計画的に進めており、また、事業費等については、毎年の行財政3か年実施計画で定めているため、今後も同様の対応を考えております。	尾花委員
15	SDGsは国連で採択された国際目標であり、自治体の最高計画規範である総合計画の中に何らかの形で位置付けることが妥当と考えるが、例えば、鎌倉市は第4期基本計画の策定に当たり、自治体SDGsの理念を掲げ、世界共通のものさしの中での市の立ち位置や状況を客観的に分析するとともに、施策にSDGsのターゲットを関連付け、施策体系を再構築することとしているが、導入の見解は	資料2	国でも自治体の総合計画にSDGsの要素を取り入れることを推進しており、本市においてもSDGsは重要な視点だと捉えていることから、ご指摘のように各施策にSDGsのターゲットを関連付けしたり、分野によって取り入れられるものはターゲット指標を次期総合計画の指標にも取り入れたいと考えております。	尾花委員
16	5 策定計画（4）あげお未来創造市民会議 メンバーは決まっていますか？メンバーの一覧がみたい（年代等も含め）	資料1 P3	別紙3として添付いたしました。 また、市HPの行政経営課ページに「第6次上尾市総合計画の策定経過」として、市民会議の状況等を公開しておりますので、ご参考にしてください。	前島委員
17	総合計画の全体構造イメージ 基本理念とまちづくり基本方向の関連は？	資料2	まずは、計画を策定するうえでのベースとなる『基本理念』を固め、その『基本理念』を基に『将来都市像』は決めたいと考えています。 『まちづくりの基本方向』は、10年後に目指す将来の姿である『将来都市像』を達成するための施策となります。	前島委員
18	まちづくりの基本計画の5と6、基本計画の5と6の住み分けがわかり難い	資料2	施策の大項目5「安全で便利なまちづくり」の中身は、「防災／防犯／交通／消防」となっており、市民個々にまつわる内容でソフト面での施策イメージ。 施策の大項目6「快適に過ごせる環境と共生するまちづくり」は、「住環境／環境／道路・河川／上下水道」となっており、主にハード面の整備となっております。	前島委員
19	基本計画の、1 明日を担う人を育むまちづくり 子育て世代と、教育を受ける世代の中間の年代→若者支援という文言がない 3 第5次計画前期では、支え合う街づくりの、生活支援に、ニートや引きこもり支援があったが、後期では、1 明日を担う人を育むまちづくりの中で、若者の自立支援を示し、大きく評価できる従って、その文言を基本計画に入れてはどうか	資料2 資料3-1 資料3-2 4P	第6次上尾市総合計画前期基本計画 施策体系(案)においても、施策の3-1-2に「ニート・引きこもり対策」として掲載しております。	前島委員
20	◎ 趣旨、内容、視点の中に、確かな「理念」や「拠り所となるもの」を明確に著わしたした方が良いのではないかと考えます。 例えばですが、第6次総合計画は、「誰一人置き去りにしない社会を2030年までに築くことを、2015年に国連総会が満場一致で採択したSDGs（持続可能な開発目標）の理念を基に、本市の現状を踏まえつつ…」みたいな感じで、きちんとした理念や学術的な裏付け（これは統計資料などを基に既にある程度できているかとは思いますが）を持って取り組んでいくという明確なメッセージ、文言を入れた方がよいのではないかと感じました。（文言等はきちんと精査していません。あくまでも一例です。） また、総合計画の中では、「持続可能な」という文言がよく使われています。今や、どこでも耳にする言葉で、あらゆる市町村の計画でも使用されていますが、やはり、この文言がどういった考えから引用されているのかということを、最初に述べる必要があると考えます。		ご指摘いただきました件につきましては、総合計画を作成する際、冒頭に記載する「策定の背景」や「時代の潮流」の箇所に説明を入れたいと考えております。	前島委員